



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農業近代化と農業改良普及制度の役割について
Author(s)	柳田, 泰典
Citation	北海道大学教育学部社会教育研究室報, 1975, 44-59
Issue Date	1976-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28573
Type	departmental bulletin paper
File Information	1975_P44-59.pdf



農業近代化と農業改良普及制度の役割について

(卒業論文要約)

社会教育ゼミ4年目 柳田泰典

本論文の課題は、第一に、今日、日本農業の危機を生起せしめた農業「近代化」政策がどのように推進されたかを、支配体制側の農民教育制度として体系づけられ、その中心的役割を果たしてきた農業改良普及制度の展開を軸に解明することにある。第二に、農業「近代化」政策の推進が小商品生産者としての農民の生産力構造とどのような点において矛盾、衝突しているのか、また、どのような点において貫徹を容易にしているのかを根室管内別海町の実態調査を中心に明らかにすることにある。第三に、日本農業の自主的・民主的発展をめざし、農業生産力の発展を基礎にして、農業生産、経営と農民の生活を擁護、向上させるために今日問われている課題を明らかにすることにある。

1 1960年代以降今日にいたる日本農業の展開は、新安保条約、開放体制下の日本資本主義の展開(「高度経済成長」政策)に対応して与えられた。それは、農業基本法(1961年)にもとづく「構造農政」「総合農政」によって強く特徴づけられる。このような農業政策は極めて大きな問題を含みながら進行した。第一に、この間における非農業部門の成長にくらべて著しい立遅れであり、工業と農業の超絶的ともいわれるほどの不均等発展の拡大である。第二は、農業生産内部における各部門間、または作目間あるいは地域間の不均等発展である。第三は、このような不均等発展の中で麦類、雑穀、大豆などが国に在来的な作目がアメリカをはじめとする外国農産物の大量輸入によって潰滅的な打撃をうけ衰退の一途を辿っていることである。

2 農業「近代化」政策の推進の中で、1948年、教育的手段により「考える農民」をつくるという目的の中で成立した農業改良助長法と農業改良普及制度は、1950年、1952年、1958年、1962年の「改正」の中で農業「近代化」政策に従属しながら変化、展開し農業近代化技術指導、補助・融資事業の技術査定機関として急速に変貌して行くのである。これらのメカニズムと性格は、第一に、農業改良普及事業において三分の二以内の国庫補助という中で国家政策に従属をしいられていく。第二は、地方自治行政でありながら地方農政局(1963年全国を7つに分割)の管理と国家統制をつよめ、普及所においても、所長、次長、主任制と「職階制」の導入により政策の遂行を管理・統制する。第三に、国家主導による研修体制の中で「選択的拡大」「大規模化」、作目別には、畜産、野菜、果樹を中心に農業改良普及員、専門技術員の研修が行なわれながらすすめられる。第四に、地域的な不均等重点配置により地域間拡大の拡大をすすめる。第五に、指導体制においては、個別指導から集団指導、集団指導から重点指導、そして地域総合指導という展開の中で「近代化」「大規模化」農家に対する指導をつよめ階層差をひろげるとともに、農民層分解を促進する。また、70年代以降は地域計画(目標基準規模設定)を市町村、農協等と協議策定し、それらの基準に沿った技術指導をするとともに選別、差別を強化していく。第六に、このよ

うな国家統制の強まりの中で「広域統合化」に象徴されるように農家から遠ざかり構造改善事業等
上からの国家的政策遂行が前面にでてくるのである。

3 表1は、わが国における農業総生産額と作目別構成比を示したものである。これによれば

(単位：億円、%)

表1 わが国における農業総産額と作目別構成比

年 度	総 出 産 額	計	耕 種							養 蚕	計	畜 産				
			うち 米	麦 類	豆 類	い も 類	野 菜	果 実	工 芸 物			うち 肉 用 牛	豚	ブ ロ イ ー	鶏 卵	生 乳
35	19,043 100%	15,319	9,074 47.6	1,060 5.6	490 2.6	577 3.0	1,587 8.3	1,154 6.1	837 4.4	562 3.0	2,882 15.1	438 3.0	561 4.0	—	992 4.0	493 2.6
36	20,889 100%	16,381	9,182 44.0	1,079 5.2	485 2.3	617 3.0	2,124 10.2	1,347 6.5	988 4.7	600 2.9	3,598 17.2	437 2.9	716 4.4	—	1,314 6.7	639 3.0
37	24,045 100%	18,720	10,679 44.4	946 3.9	450 1.9	727 3.0	2,495 10.4	1,618 6.7	1,165 4.9	669 2.9	4,299 17.9	529 2.9	819 4.4	99 0.4	1,479 6.3	815 3.3
38	25,457 100%	19,345	11,345 44.6	341 1.3	516 2.0	847 3.3	2,649 10.4	1,685 6.6	1,246 4.9	808 3.2	4,934 19.4	524 2.7	1,023 5.3	196 0.8	1,726 7.1	910 3.6
39	28,246 100%	22,042	12,698 45.0	837 3.0	411 1.5	715 2.5	3,305 11.7	1,797 6.4	1,486 5.3	628 2.2	5,190 18.4	442 1.6	1,148 5.1	344 1.2	1,707 7.7	1,045 3.7
40	31,390 100%	24,278	13,691 43.6	940 3.0	520 1.7	793 2.5	3,735 11.9	2,100 6.7	1,548 4.9	729 2.3	6,004 19.1	376 1.2	1,474 5.2	304 1.0	2,005 7.3	1,174 3.7
41	35,853 100%	27,196	15,346 42.8	869 2.4	468 1.3	852 2.4	4,410 12.3	2,432 6.8	1,793 5.0	978 2.7	7,303 20.4	622 2.2	1,988 7.3	451 1.6	2,132 7.8	1,332 4.9
42	41,616 100%	31,960	18,977 45.6	896 2.2	482 1.2	716 1.9	5,141 12.4	2,534 6.1	1,994 4.8	1,245 3.0	8,008 19.2	799 2.5	1,828 5.7	474 1.4	2,397 7.1	1,658 4.7
43	44,207 100%	33,346	20,098 45.5	980 2.2	514 1.2	678 1.5	5,170 11.7	2,668 6.0	1,996 4.5	1,109 2.5	9,394 21.3	1,006 2.9	2,200 6.3	572 1.7	2,669 7.6	1,931 5.4
44	47,130 100%	35,081	19,614 41.6	752 1.6	519 1.1	666 1.4	6,498 13.8	3,563 7.6	2,012 4.3	1,080 2.3	10,577 22.4	1,139 2.4	2,559 5.7	740 2.1	2,928 6.4	2,209 4.7
45	47,094 100%	34,424	17,662 37.5	483 1.0	546 1.2	781 1.7	7,400 15.7	3,965 8.4	2,040 4.3	1,261 2.8	11,047 23.5	964 2.7	2,692 6.1	896 2.5	3,157 7.0	2,347 5.0
46	46,047 100%	32,446	15,655 34.0	496 1.1	497 1.1	678 1.5	7,233 15.7	4,018 8.7	2,116 4.6	1,040 2.3	12,187 26.5	1,048 2.9	3,125 7.5	1,115 3.1	3,322 7.8	2,550 5.8
47	51,497 100%	36,528	17,867 34.7	337 0.7	512 1.1	791 1.5	8,314 16.2	4,159 8.1	2,548 5.0	1,199 2.3	13,375 26.0	1,308 3.6	3,405 9.3	1,186 3.2	3,631 8.0	2,690 5.6
48	64,133 100%	44,233	31,086 32.9	264 0.4	744 1.2	1,189 1.9	10,694 16.8	4,975 7.8	3,106 4.8	1,935 3.0	17,431 27.2	1,990 4.7	5,304 12.2	1,728 4.8	3,983 9.0	3,078 4.5

(注) 「農林白書付属統計表」により作成

表2 農業改良普及計画でとりあげられた主要課題

(時間数%)

	S34	S35	S36	S37	S39		S41	S43	S44	S46
普通作	40.4	27.5	イネ作 20.4 その他 5.1	24.5		主穀作物	25.0	30.1	26.1	20.7
蔬菜作	12.9	13.7	11.6	13.1	野菜 17.3	やさい	21.0	18.0	21.5	花卉 22.1
果樹作	7.8	8.9	9.1	10.7	17.2	果樹	16.0	12.9	14.1	12.9
畜産	7.1	5.5	7.9	9.7	24.0	畜産	20.0	20.5	19.9	19.3
経営	4.9	6.2	7.8	9.6		複合	9.0	8.2	8.6	12.9
特用作	3.1	2.4	3.3	5.1		青少年	9.0	10.8	9.2	9.3
青少年関係	3.8	4.1	4.2	5.0		その他			0.6	2.8
農機具・畜力	2.1	1.5	1.5							
その他	17.9	19.8	18.5	17.2						
飼料作物及 草地不良 農業改良普及 計画作成 採種事業		1.5	1.9		5.1	生産性向上に 関する課題	54.0	55.2	50.0	42.1
融資関係		1.9	1.6			選択的拡大	16.0	14.5	15.0	15.0
その他		1.4	1.2			経営規模拡大	12.0	11.3	15.0	10.7
		2.8	2.7			流通合理化	4.0	3.4	4.1	4.3
						青少年育成	9.0	10.5	9.0	8.6
						その他	5.0	5.1	6.9	10.0
						構造改善				9.3
(1人当り)実動 年平均時間	S34.4~ 12 15都府 県平均	S35.1~ 12 10都府 県平均	S36.1~ 12 20都府 県平均	S37.1~ 12 24都府 県平均			44県937 普及所			

注 1.出所 家の光協会「日本農業年鑑」

60年代を通じ麦類、豆類、いも類などが生産減少、荒廃化の道をたどっていきのたいたいし畜産をはじめ果樹、野菜など「選択的拡大」の対象とされる部門はかなり大巾な生産拡大をつづけ農業総生産額のなかで畜産物、果樹、野菜の占める比重は昭和35年の29.5%にたいし昭和45年には47.6%にまで達し、いまや稲作(昭和45年で87.5%)をはるかにうまわるようになったのである。農業改良普及指導は、これらの「選択的拡大」のなかで次のように展開される。農業改良普及計画でとりあげられた主要課題を表2についてみると、昭和34年40.4%であった普通作は、

昭和35年には27.5%と急速におちこみ60年代を通してみると、昭和35年の27.5%から昭和46年の20.7%と急速に減少するのである。これに対し、「選択的拡大」の対象部門、畜産、野菜、果樹作に対する普及は、昭和35年には28.1%であったものが昭和46年には54.8%と急増するのである。しかも、その主な内容を生産性向上に関する課題50%、選択的拡大15%、経営規模拡大10数%と「構造農政」を着実に指導内容とし実行していったことがわかる。

4 農業改良普及所は、農業基本法成立以前の昭和33年から特技普及員として「選択的拡大」に対応する専門技術をもつようになる。表3によれば昭和33年から昭和40年にいたるまで、作物1,711名に対して、畜産2,223名、果樹1,552名、野菜1,540名と「選択的拡大」対象作物は、5,315名と3倍以上になっている。

表3 特技研修の推移

	33~35	36	37	38	39	40	計
畜産	903	493	356	193	143	135	2,223
園果樹	292	378	338	196	169	179	1,552
芸蔬菜	241	219	331	256	274	219	1,540
経営	1	293	337	352	268	259	1,480
作物	195	29	75	428	469	515	1,711
計	1,632	1,412	1,437	1,395	1,323	1,307	8,506

(注) 家の光協会「日本農業年鑑」による

5 表4は、北海道における主要農作物生産額比率であるが稲作においては昭和40年から昭和46年に14.7%減じ(作付面積は17.4%減)と北海道農業における地位を畜産にゆずり以降急速におちこむのである。表5は、北海道における改良普及員構成の推移であるが畜産生産額比率を並行して畜産項目が急速に増加しているのがわかる。表6は、北海道における主要作物の地域動向であるが、1位、2位を合わせると作付面積の大半をしめるといふ地域間の不均等発展がめだっている。これらに対応して表7について北海道における農業改良普及員の地域別項目別推移をみると、空知、上川、十勝、網走地域に重点的な配置を行なっているのがわかる。

6 調査対象地は根室管内別海町である(研究室の共同調査として行なった)。別海酪農は第一に、表8のように(昭和44年以来)年々生乳生産対前年度比率を低下させているが、これを地域別(農開協別)にみると表9に示したように対前年度比率の急速な後退は全町的な傾向であることがわかる。このことは、比率の後退にあらわれている酪農生産の停滞が一時的なものではなく、別海町酪農が深刻な危機にみまわれていることを意味する。またこのことは、生乳出荷量別戸数についてみると、表10のように昭和44年から昭和46年には上昇していた年間出荷量70~90トン農家が昭和46年から昭和49年にかけて急速に落ちこむという中にもあらわれている。第二は、別海酪農における多頭化はもはや限界点に達していることである。農開協別経営概況によれば一戸当り乳用牛頭数が増加している地区は、別海、中春別、根釧パイロットファーム、泉川であるが、

表4 北海道における主要農作物生産額比率

(%)

	米	麦類	雑穀	豆類	雑穀・豆類	いも類	野菜	果実	工業作物	まゆ	花卉	稲わら	種苗 (飼料作物)	畜産物	牛乳	肉用牛	肉豚	にわとり	その他
S25	40.6	4.9	7.5	15.6		11.4	7.2	1.4	2.9	0.0		0.1		8.4					
26	33.1	4.8	8.0	16.6		14.0	6.9	1.3	4.4	0.0		0.1		10.8					
27	37.9	3.4	8.7	19.0		9.0	7.1	1.3	4.0	0.0		0.1		9.6					
28	34.9	3.0	7.6	16.2		11.4	6.8	1.4	6.1	0.0		0.1		12.6					
29	29.8	3.7	8.3	18.5		11.2	6.9	0.6	5.7	0.0		0.1		15.1					
30	42.0	2.7	5.2	18.2		6.9	7.2	1.3	5.2	0.0		0.1		11.1					
31	25.1	2.5	7.5	19.8		11.0	7.1	1.9	7.1	0.0		0.1		17.8					
32	38.6	1.4	5.1	14.7		9.9	6.5	1.3	5.6	0.0		0.1		17.4					
33	41.9	1.9	4.1	16.4		8.7	6.3	1.4	6.0	0.0		0.1		13.2					
34	40.3	1.5	4.3	16.7		8.6	6.1	1.0	6.7	0.0		0.1		14.8					
35	40.0	1.3	4.1	15.0		9.1	6.4	1.5	6.6	0.0		0.1		16.1					
36	41.1	4.1		14.7		7.1	7.0	1.8	5.1		0.0		0.4	18.8					
37	39.3	1.8	1.6	11.4		7.6	7.4	1.9	5.8		0.1		0.5	22.6					
38	41.8	1.7	0.5	11.7		7.0	8.6	1.6	4.8		0.1		0.7	21.6	8.8		2.7	ケイラン 4.0	6.0
39	36.7	1.7	0.3	7.3		9.0	9.5	1.5	5.9		0.0		0.9	27.2	12.2		3.0	3.8	8.1
40	39.7	1.1	0.3	10.4		7.4	8.8	1.3	6.3		0.1		0.6	24.1	10.3		2.9	3.4	7.4
41	39.0	0.8	0.2	7.1		6.7	9.7	1.3	5.8		0.1		0.6	28.1	12.7		3.5	3.5	8.4
42	47.2	0.8			7.3	6.3	8.7	1.5	4.9		0.1		0.5	22.4	10.3		2.4	2.6	7.2
43	49.8	0.8			5.7	5.4	6.9	1.1	4.9		0.1		0.4	24.7	11.7		2.7	2.8	7.5
44	40.0	0.8			6.5	6.2	8.7	1.0	5.2		0.1		0.6	30.8	14.8		3.5	3.4	9.1
45	35.2	0.5			7.3	6.6	10.2	1.2	5.3		0.1		0.6	33.1	19.6	0.6	4.0	4.5	4.4
46	24.0	0.6			6.6	6.1	12.1	1.9	6.1		0.1		0.7	41.7	25.0	0.9	5.5	5.0	5.3
47	29.2	0.6			8.1	6.0	10.9	1.7	6.1		0.1		0.6	36.5	21.8	1.5	5.2	4.5	3.5
48	25.0	0.6			8.3	7.4	13.2	1.6	5.4		0.1		0.6	37.7	21.9	2.8	5.0	4.1	3.7

(注) 農林統計協会「北海道農林水産統計」による

表5 北海道における改良普及員構成の推移

区分 年次	所長	次長	主任	農改	特技・専門項目別数										生改	合計	
					経	畜	機	そ	果	果	そ	稲	畑	計			%
昭37				695	69	183	26	33	25	1			338	42	106	801	
38				696	90	195	36	40	27	1			389	48	114	810	
39				700	79	195	35	46	29				386	48	126	826	
40	191			505	186	259	71	76	34	1			582	69	144	840	
43	180		32	482		98	2	31	13	普方 教 5	1	91	45	288	33	179	874
44	60		146	483		202		58	28	花卉 1	1	173	137	604	69	178	873
45	60		226	565		233		67	30	園芸 1	1	211	162	704	68	180	1,031
46	60		224	560		239		70	28	花卉 1	1	202	156	696	68	175	1,019
47	60	22	208	515	1	264		84	27			211	159	746	76	175	980
48	60	54	172	516		263		87	24			214	152	740	76	173	975
49	60	54	175	516		268		96	24	花卉 2	2	210	148	748	76	176	981

(注) 普及員名簿より作成

表8 別海町酪農の基本動向(乳用牛)

	飼養戸数 (A)	総頭数 (B)	成牛(24ヶ月以上) (C)	牧草地 (D)	乳牛1頭当り 牧草面積 (D/B)	成牛1頭当り 牧草面積 (D/C)	1戸当り飼 養頭数 (B/A)	生乳生産量 (E)	増加率 (%)	成牛1頭当り 乳量 (E/C)
昭和55年	2,148戸	10,561ト	—ト	—ha	—ha	—ha	4.9ト	22,789ト	—	—kg
37	2,133	14,653	9,960	11,146	0.76	1.12	6.9	28,690	25.9	2,881
40	1,894	17,541	12,300	18,518	1.06	1.51	9.3	44,386	54.7	3,609
42	1,752	24,164	16,065	21,903	0.91	1.36	13.8	58,543	31.9	3,644
44	1,686	34,680	22,481	29,088	0.84	1.29	20.6	87,041	48.7	3,872
45	1,696	40,184	29,162	32,668	0.81	1.12	23.7	99,952	14.8	3,428
46	1,620	45,802	29,467	34,669	0.76	1.18	28.3	112,179	12.2	3,807
47	1,569	48,244	30,992	38,268	0.79	1.23	30.8	123,231	9.9	3,976
48	1,531	51,376	33,718	40,564	0.79	1.20	33.6	132,002	7.1	3,608
49	1,493	56,193	36,582	43,395	0.77	1.19	37.6			

(注) 北海道農業基本調査、農林業センサス、乳量は別海町農業委員会資料

表9 農開協別乳量実績(別海町)

	昭和45	46	47	48	49	S45→46	S46→47	S47→48	S48→49
	乳量実績	乳量実績	乳量実績	乳量実績	乳量実績	増加率(%)	増加率(%)	増加率(%)	増加率(%)
計根別	22,889ト	26,094ト	28,989ト	30,316ト	31,733ト	14.0	11.1	4.6	4.7
西春別	12,464	13,884	14,702	15,240	16,169	11.4	5.9	3.7	6.1
上春別	11,355	13,250	18,904	20,453	21,495	16.7	12.3	8.2	5.1
中春別	6,766	8,139	9,298	10,627	14,365	20.3	14.2	14.3	2.0
別海	27,625	31,039	34,697	38,584	40,730	12.4	11.8	11.2	5.6
上春別開協	3,290	3,580							
西春別開協	6,469	7,061	7,605	7,790	8,308	9.2	7.7	2.4	6.7
泉川開協	4,604	4,937	5,368	5,450	5,512	7.2	8.7	1.5	1.1
根釧PF開協	20,089	21,375	22,283	23,067		6.4	4.3	3.5	

(注) 根室管内農協要覧より作成～北農中央会中標津支所

表 6 北海道における主要作目の地域動向

	全道作付面積 ha	道内主要産地（作付順位別）								全道作付面積 ha	道内主要産地（作付順位別）							
		第 1 位	%	第 2 位	%	第 3 位	%	第 1 位	%		第 2 位	%	第 3 位	%				
水	S25	134,618	空知 47,572	35.3	上川 40,682	30.2	石狩 10,884	8.1	S25	15,951	十勝 4,757	29.7	空知 2,216	13.9	上川 1,688	10.5		
	30	143,511	" 50,578	35.2	" 42,271	29.4	" 12,660	8.8	小 30	32,394	" 8,084	25.0	" 5,461	16.9	" 4,681	14.5		
	35	197,100	" 70,292	35.7	" 54,334	27.6	" 22,154	11.2	35	61,000	" 23,565	38.6	上川 9,342	15.3	空知 7,001	11.5		
	40	229,700	" 85,500	37.2	" 59,300	25.8	" 26,400	11.5	40	44,200	" 20,500	46.4	" 7,430	16.8	網走 4,550	10.8		
	45	206,400	" 75,600	36.6	" 51,100	24.8	" 22,200	10.8	45	43,800	" 22,500	51.4	" 6,460	14.7	" 4,800	11.0		
	50	185,300	" 80,400	43.4	" 38,400	20.7	" 16,700	9.0	豆 47	66,400	" 26,100	39.3	" 13,200	19.9	空知 9,110	13.7		
稲	S25	255,46	網走 10,220	40.0	上川 4,330	16.9	十勝 3,988	15.6	S25	71,269	網走 15,981	22.4	上川 12,364	22.0	十勝 11,635	16.3		
	30	15,815	" 7,525	47.6	十勝 2,372	15.0	上川 2,318	14.7	馬 30	68,340	" 15,376	22.5	" 11,766	17.2	" 10,583	15.5		
	35	15,100	" 8,810	58.3	" 2,191	14.5	" 1,616	6.6	鈴 35	89,300	" 19,112	21.4	" 16,708	18.7	" 12,681	14.2		
	40	14,400	" 7,120	49.4	" 3,780	26.3	" 939	6.5	し 40	92,800	" 22,600	24.4	十勝 20,100	21.7	上川 17,600	19.0		
	45	11,700	十勝 6,490	55.5	網走 4,670	39.9	胆振 182	1.6	よ 45	69,800	" 19,300	27.7	" 18,800	26.9	" 11,200	16.0		
	50	7,690	" 4,610	55.5	" 3,120	37.5	上川 339	4.1	50	73,600	" 23,400	31.8	" 22,400	30.4	" 9,620	13.1		
麦	S25	23,100	" 12,900	55.8	" 7,340	31.8	" 1,250	5.4	50	71,400	" 23,700	33.3	" 22,300	31.2	" 7,950	11.1		
	S25	78,102	十勝 36,482	46.7	網走 12,788	16.4	上川 6,017	7.7	S25	14,666	網走 4,701	32.1	十勝 4,690	32.0	上川 1,894	12.9		
	30	54,498	" 23,976	44.0	" 8,712	16.0	" 3,856	7.1	て 30	16,200	" 5,854	36.1	" 3,576	22.1	" 2,176	13.4		
	35	68,600	" 41,380	60.3	" 8,746	12.7	" 3,618	5.3	35	46,000	" 16,980	36.9	" 12,637	27.5	" 3,470	7.5		
	40	32,900	" 21,400	65.0	" 3,500	10.6	" 1,430	4.3	ん 40	55,200	" 22,500	40.8	" 18,900	34.2	" 3,680	6.7		
	45	10,000	" 7,420	74.2	" 699	7.0	渡島 478	4.8	45	54,100	十勝 24,700	45.7	網走 18,600	34.4	" 4,140	7.7		
豆	47	14,300	" 10,300	72.0	上川 1,380	9.8	網走 754	5.3	菜 47	57,800	" 27,000	46.7	" 19,300	33.4	" 5,220	8.9		
50	17,100	" 14,000	81.9	" 826	4.8	空知 642	3.8	50	47,958	" 23,889	49.8	" 16,311	34.0	" 3,331	6.9			
たまねぎ	S40	2,781	石狩 1,920	69.0	空知 522	18.8	上川 432		に S40	3,010	上川 645	21.4	網走 634	21.1	石狩 372	12.4		
	45	4,051	" 1,400	34.6	網走 1,222	30.1	空知 822		ん 45	3,150	網走 1,230	39.0	上川 703	22.3	" 312	9.9		
	47	5,888	網走 2,120	36.0	空知 1,510	25.6	石狩 1,420		じ 47	2,935	" 1,020	34.8	" 825	28.1	" 241	8.2		
	49	7,350	" 3,040	41.4	" 1,840	25.0	" 1,380	18.8	ん 49	3,150	上川 1,070	34.0	網走 1,050	33.3	空知 208	6.7		
牛乳生産量(千t)	S32	259	十勝 42	15.9	網走 40	15.4	釧路 28	10.7	S36	143	十勝 39	27.3	釧路 19	13.1	網走 18	12.7		
	35	358	" 57	16.0	" 56	15.7	" 39	10.9	牧 40	216	" 59	27.3	根室 29	13.3	釧路 28	13.0		
	40	611	" 121	19.8	" 108	17.7	根室 73	11.9	草 45	328	" 81	24.6	" 53	16.0	" 46	14.1		
	45	1,141	" 253	22.1	" 209	18.2	" 166	14.5	計 47	418	" 90	22.6	" 60	14.3	" 58	14.0		
	47	1,335	" 283	21.8	" 227	17.5	" 208	16.0	(千t) 49	476	" 99	20.7	" 74	15.5	" 67	14.1		
	49	1,398	" 295	21.8	根室 237	17.3	網走 227	16.8										

(注) ・農林省「作物統計」より作成、昭和25、30年は北海道農業基本調査による

・「北海道における農産物商品化構造」(三田保正)より

表7 北海道における農業改良普及員の地域別、項目別推移

	石狩						空知						上川						後志						宗谷															
	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計										
S37	50	44	4	11	4	1	1	20	109	94	8	17	1	7	6	39	108	96	11	19	1	5	4	40	54	46	4	11	3	2	2	22	30	23	2	9	2	1	14	
38	47	41	6	10	1	5	2	1	25	110	98	11	20	2	8	5	46	110	96	10	16	1	4	4	35	55	47	6	12	3	3	3	27	31	24	3	10	3	2	18
39	48	43	4	13	1	5	1	24	112	95	11	20	2	11	6	50	110	95	12	20	5	7	6	50	56	48	6	10	2	3	3	1	25	28	21	2	7	1	2	12
40	50	32	7	15	4	8	1	35	113	70	15	24	5	18	10	72	111	68	18	25	7	10	6	67	59	34	6	12	4	7	4	1	34	29	15	6	7	2	4	19
48	52	30	3	3	1	7	1	(15)	116	63	4	4	4	3	教229	(45)	115	66	7	1	3	3	18	5	(37)	61	33	5	3	1	5	1	(15)	32	16	4	1	1	(6)	
44	52	30	12	9	2	1	14	2	40	117	66	11	8	9	52	1	81	115	65	14	7	4	49	8	82	61	33	13	5	2	9	14	43	32	16	18	2	5	20	
45	65	37	11	9	3	18	3	44	180	73	11	8	9	63	2	93	137	78	16	8	4	52	13	93	70	36	14	6	4	11	13	48	41	21	17	1	8	26		
46	65	37	14	10	3	17	3	47	128	73	9	10	8	63	3	93	136	78	21	8	4	49	12	94	69	35	17	6	4	11	12	50	38	19	18	1	8	22		
47	60	35	14	11	3	17	4	49	128	69	13	11	7	62	3	96	132	74	21	15	2	51	15	104	68	35	16	7	3	12	14	52	34	13	16	1	7	24		
48	60	36	13	10	3	20	4	50	128	70	12	16	6	62	1	97	133	74	21	15	3	48	15	102	65	35	16	8	3	13	12	52	36	15	16	1	5	22		
49	60	35	11	12	3	20	4	51	129	70	12	16	6	花163	1	99	137	76	22	17	2	47	18	106	67	35	17	9	5	11	11	53	37	16	17	1	4	22		
	檜山						渡島						胆振						高知						留萌															
	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計				
S37	27	23	1	5	2	8	40	33	3	10	1	4	1	19	34	30	2	9	2	2	15	33	29	3	9	2	3	17	35	29	4	10	1	1	15					
38	28	23	3	6	1	1	11	42	34	3	9	2	4	1	19	36	29	3	10	2	2	17	35	30	4	8	3	3	18	33	28	6	12	1	1	20				
39	29	23	1	6	1	1	9	43	34	3	8	2	4	1	18	37	30	1	9	1	1	2	14	35	30	5	8	2	2	3	20	36	28	3	10	1	1	15		
40	30	14	3	13	2	3	21	43	21	4	11	3	5	1	24	36	20	4	11	1	3	3	22	35	20	9	10	4	2	3	28	35	20	8	12	1	1	22		
48	33	15	5	5	5	(10)	45	22	4	3	1	3	(11)	40	17	3	3	1	5	(12)	37	20	6	1	1	5	2	(15)	37	19	4	1	7	1	(13)					
44	33	15	9	3	9	1	22	45	22	9	6	3	8	3	29	39	17	9	3	2	7	5	26	37	20	6	2	1	5	2	16	37	19	9	1	1	10	4	25	
45	38	18	9	3	11	1	24	49	23	11	7	3	8	3	32	48	22	13	6	2	8	6	35	45	25	10	2	1	10	4	27	43	22	9	1	1	14	1	26	
46	40	20	11	3	10	1	25	50	24	17	8	3	8	3	39	45	22	12	4	2	1	9	6	34	44	25	10	1	1	11	3	26	44	23	11	1	1	12	2	27
47	39	19	12	4	9	1	26	46	20	15	8	2	1	7	1	34	47	23	13	6	4	10	4	37	40	20	12	4	1	12	2	31	40	20	11	1	1	14	2	29
48	39	19	11	3	11	2	27	46	20	12	8	2	9	2	33	46	22	12	7	3	12	2	36	39	19	15	4	9	3	31	40	21	14	1	1	15	2	33		
49	38	19	13	4	11	2	30	48	20	14	7	2	1	9	2	35	46	22	13	7	2	11	2	35	40	19	11	4	1	11	2	29	39	20	15	1	1	13	2	32
	十勝						釧路						根室						網走																					
	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計	所員数	農改数	経	畜	機	計																
S37	109	95	8	26	6	3	43	41	35	3	12	3	2	20	30	27	3	13	2	18	101	91	13	24	5	1	5	48												
38	108	93	9	27	8	3	1	43	41	36	4	16	3	3	26	30	27	5	13	2	20	104	95	17	26	6	1	5	55											
39	109	95	9	33	9	3	1	55	45	37	3	15	3	1	22	31	27	3	11	3	17	107	94	16	25	2	5	5	53											
40	111	74	19	43	17	8	1	88	47	27	8	19	6	1	34	31	21	8	18	4	30	110	69	22	43	9	8	7	89											
48	113	71	15	1	3	1	1	4	17	(47)	46	26	13	1	1	2	(17)	33	21	11	1	(12)	114	64	14	3	2	1	3	15	(39)									
44	113	70	28	5	1	4	49	87	46	26	21	1	10	32	34	21	21	1	4	25	112	63	31	6	3	1	6	29	76											
45	125	72	27	5	1	6	49	88	59	34	25	1	18	44	50	34	30	1	3	34	131	70	30	9	2	1	10	38	90											
46	125	72	24	5	1	6	48	84	58	32	25	1	12	38	49	33	25	1	2	23	128	67	30	11	1	6	41	89												
47	120	66	31	6	1	7	45	90	51	24	28	1	10	39	45	27	31	2	3	36	130	70	31	7	3	10	48	99												
48	119	65	35	5	6	46	92	52	26	26	1	11	38	43	25	26	2	4	32	129	69	33	7	3	9	43	95													
49	119	64	34	4	6	46	90	52	26	27	2	1	9	39	42	24	24	1	5	30	135	71	33	12	3	7	40	100												

(注) 1.北海道農業改良普及職員名簿より作成
2.昭和43年度は受研修者別

表10 生乳出荷量別戸数

(単位：戸、%)

	昭和 44年	45	46	47	48	49	増減S44 →46	S46→ 49
～49t	1,704	1,311	1,018		587	491	△40.3 ^(%)	△51.8 ^(%)
50～59	362	335	277	1,484	196	158	△23.5	△43.0
60～69	305	309	265		226	176	△13.1	△33.6
70～79	200	277	266		219	221	33.0	△17.0
80～89	104	210	250	223	195	184	140.4	△26.4
90～99	85	112	202	217	218	186	133.7	△11.9
100～119					356	383		7.6
120～149				168	307	395		28.7
150～199				131	168	209		24.4
200～249	125	294	479		44	52		18.2
250～300				31	5	15		200.0
300～					3	6		100.0
合計	2,885	2,848	2,757	2,651	2,524	2,479		

(注) 1.標準、中標準、羅臼、根室、計根別をふくむ

表11 一戸当り生産資材費(農協別)

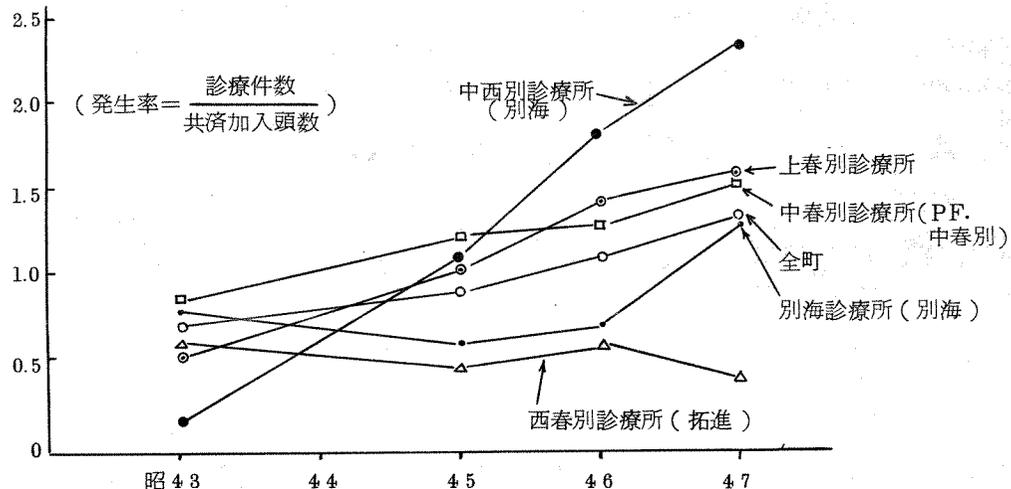
(単位：千円)

	年度	肥料	農機具	石油類	飼料	計
別海	46	284	532	203	593	1,784
	47	363	537	269	710	2,068
	48	560	944	422	1,240	3,497
中春別	46	375	610	11	544	1,877
	47	536	1,259	22	828	2,971
	48	1,002	253	—	1,062	(2,914)
根釧PF	46	423	202	405	926	2,201
	47	961	460	401	1,233	3,443
	48	801	724	527	2,214	4,665
上春別	46	339	676	212	789	2,245
	47	511	492	275	1,150	2,668
	48	662	386	342	1,709	3,482
西春別	46	229	349	147	672	1,587
	47	352	428	—	869	(2,152)
	48	440	458	—	1,511	(3,178)
5区全体	46	324	468	212	693	1,909
	47	509	563	272	919	2,505
	48	649	659	433	1,529	3,606

(注) 北海道「農協要覧」による。

一戸当り草地面積が増加しているのは中春別だけである。さらに、一戸当り生産乳量についてはほぼ全地域にわたり増加しているという矛盾にぶつかるのである。このことは、別海町酪農が飼料、肥料依存を急速にふかめ、地力収奪、乳牛個体の「摩耗」の上に乳量生産が成り立っていることを意味している。表11は、一戸当り生産資材費を表わしたものであるが飼料、肥料への依存が全地域的に深まっていることがわかる。これと同時に、表12によれば乳牛の病気発生率が高まっている。

表12 産前産後起立不能症発生率



（注）塩沢照俊「草地酪農の経営構造」より

7 農家調査対象地域は中春別K地区6戸、根釧パイロットファームM地区5戸、西春別T地区4戸である。これらの調査結果によれば表13に示したように第一に、土地拡大に伴う飛び地（牧草地分散）の増加（とくに上層農家では激しい）。土地不足と牧草地拡大の限界。第二に、化成肥料、飼料依存の高まりによる地力収奪。第三に、地力収奪による疾病の増加、飼養規模拡大の限界。第四に、土地条件、経営規模に適合した機械が少ない。上層農では飛び地の増加による過剰投資、下層農では大型機械化による従来の使用可能機械廃棄による過剰投資である。また、機械メーカーの「もうけ主義」による過剰投資とともに、交換部品がない、修理になかなかこないなど使用効率の低下。第五に、飼養規模拡大の中で畜舎整備が最も遅れた部分として残されている。これらは、大規模化の部分性、跛行性を示すものである。第六に、労働力不足とそれによる省力化の推進さらなる大型化（上層農）の悪循環。第七に、負債総額は年々増加しているが、これらは上層農家に有利ではあるが意見としてはバラつきがある。第八に、低乳価、高資材という流通過程を通しての収奪の強化である。

表13

	家族数	労働力	雇用労働	農業粗収入	経営費	肥料代	飼料代	家計費	借入金残高	税金申告	生産乳量(49)	乳牛頭数(50)	搾乳牛頭数	49年1頭当り乳量	経営面積	牧草畑	団地数	化成	尿散布	堆キユウ肥施肥面積	トラクター	パイプライン	バルククーラー	パーンクリナー	ハーベスタ	49年修理代	備考		
中春別	K-1	7人	3人	日人 1×30	1,000万	150万	200万	200万	2,000万	白色	200以上	80ト	40ト	5,500Kg	50 ^{ka}	41 ^{ka}	5	70~80 ^{kg反}	— ^l	30~40 ^{ka}	台	○	2,000 ^l	○	台	10万			
	K-2	3	3	2~3 ×30	1,000	750	120	340	82	2,200	白色	140	75	39	5,000	65	40	2	60	120,000	—	2	○	2,000	○		10		
	K-3	7	2	なし	1,100	600	200	250	200	1,300	白色	170	71	35	4,600	50	37	4	—	50,000	—	2	○	2,000	○		1		
	K-4	5	3	なし	1,100	550	100	100	150	1,000	青色	123	65	34	5,000	70	45	3	50	30,000	5	5×	○	1,200	○		10		
	K-5	5	4	なし	850~ 900	400	100	60~ 70	150	2,100	青色	100	54	32	4,000	42	38	1	60	100,000	10	5×	○	1,200	○		100		
	K-6	7	2	なし	800	220	80	120	180	1,150	青色	98	50	25	4,500	45	30	1	60	140,000	7	1	○	1,200			120		
パイロットファーム	M-1	3	3	1×14	800	500	80	150	120	650	白色	100	50	29	4,000	25	25	4	30	—	8	1					1		
	M-2	5	2	なし	900	630	90	130	150	800	白色	105	45	23	5,000	35	27	2	50	30,000	4.5						15	個体販売	
	M-3	6	2	1×45								100	32	32	4,000	30	30	6	30								47		
	M-4	5	3	1×14	700	500	120	300	120	1,000	白色	99	56	22	5,000	31	21	4	100	—	5								
	M-5	5	3	なし	300		80	100		1,000	白色	29	30	10	—	—	15	1	—		3						40~ 50		
西春別	T-1	4	3	なし	1,800	1,080	120	600	120	2,800	白色	137	81	42	4,000	78	50	5	60	200,000	21.3	2	○	2,000	○		50		
	T-2	3	3	1×30	700				90	1,100		74	51	25	4,000	53	31	2	60	—	12	1		1,000			25	病気発生	
	T-3	3	3	なし	(700)		(52)		140	350	白色	80	40	20	3,800	52	38	4	90	—	20	1					10		
	T-4	3	3	なし	(570)				100	0	白色	57	20	20	4,000	30	25	2	60		5	1					20		

(注) 農家実態調査による

8 急速な大規模化の中で農民要求は農業経営の質的転換を求めている。しかし同時に矛盾と限界をも持っているのである。これは、第一に、土地問題が急速な規模拡大＝近代化と農民経営の矛盾であるにもかかわらず上層農家は交換分合によって経営改善ができると考えている。しかし、これは農民相互の矛盾として発展せざるを得ない。第二に、土地改良、乳牛個体改良、土地条件・経営規模に適合した機械導入、畜舎の整備等は農家だけで解決できる水準のものでなく多額の資金投入によらなければならない。第三に、補助金、融資金による誘導が近代化の重要な役割をはたしているが、つかいにくい資金であるというのが二戸あっただけである。たしかに下層農家には不利ではあるが資本蓄積が不可能な農民経営では今後もこの点からの近代化誘導が行なわれると同時に資金に対する期待も混在している。

9 このような農業近代化の中でひきおこされている矛盾と要求の中で農業改良普及制度は広域化により地域計画の設定による大型化に重点を移してすすめようとしている。別海町における重点対象指導は農業構造改善事業、新酪農村建設計画を中心にすすめられており、規模拡大が限界に来、矛盾をふかめている上層農家を援助しながら農民経営との格差拡大を激化させ上層農家水準への急速な平準化をはたそうとしているのである。農業改良普及制度の経営と生産に対する矛盾認識は、第一に、大規模拡大目標に対する阻害要因として把握されていると同時に第二に、現在の農民経営がもつ具体的矛盾を指摘しているのである。しかし、これらの問題が急速な近代化と農民経営との矛盾として把握されず矛盾解決のために近代化の推進という特徴をもっているのである。農業改良普及指導は技術主義に陥っているのであり生産関係を「無視」しているのである。しかし同時に、統制された技術指導と技術主義は現実の農民経営との矛盾を更に深化させざるを得ないのである。労働者であり地方自治体職員であり、技術者である農業改良普及員はゆきずまりつつある近代化の中でどちらの立場に立ち技術指導すべきか今後一層問われるであろう。

10 農民の経営を守り向上させるという立場から70年代後半以降を展望した時、とりわけ農業生産力形成という点から見た時次のような課題を挙げることができる。第一に、農業近代化と対決し個別経営を単位としながらも地域的・集団的生産力の形成を農民集団と労働者の主導で行なうこと。第二に、地域的・集団的生産力の形成にそった農業技術指導を農業改良普及所に要求してゆくこと。第三に、地方自治体の民主化、民主的政府樹立の課題と統一して農業改良普及制度の民主的改革をはかることである。

11 今後の課題

第一に、農業改良普及制度は他に農業試験場等普及過程における様々なメカニズムをもっているがこれらを解明すること。第二に、農家に対する直接的指導内容、方法という具体的な普及活動において更に農業改良普及制度の役割を解明すること。第三に、農業改良普及員の意識調査により、普及員の自治体職員、労働者、技術者であるという性格を明らかにすること。第四に、農民的生産力形成における地域的課題をあきらかにすること。以上を今後の課題としたい。